噴火湾環境情報　No.7

発行：2026年11月25日
道総研函館水産試験場
調査研究部
担当：鈴木

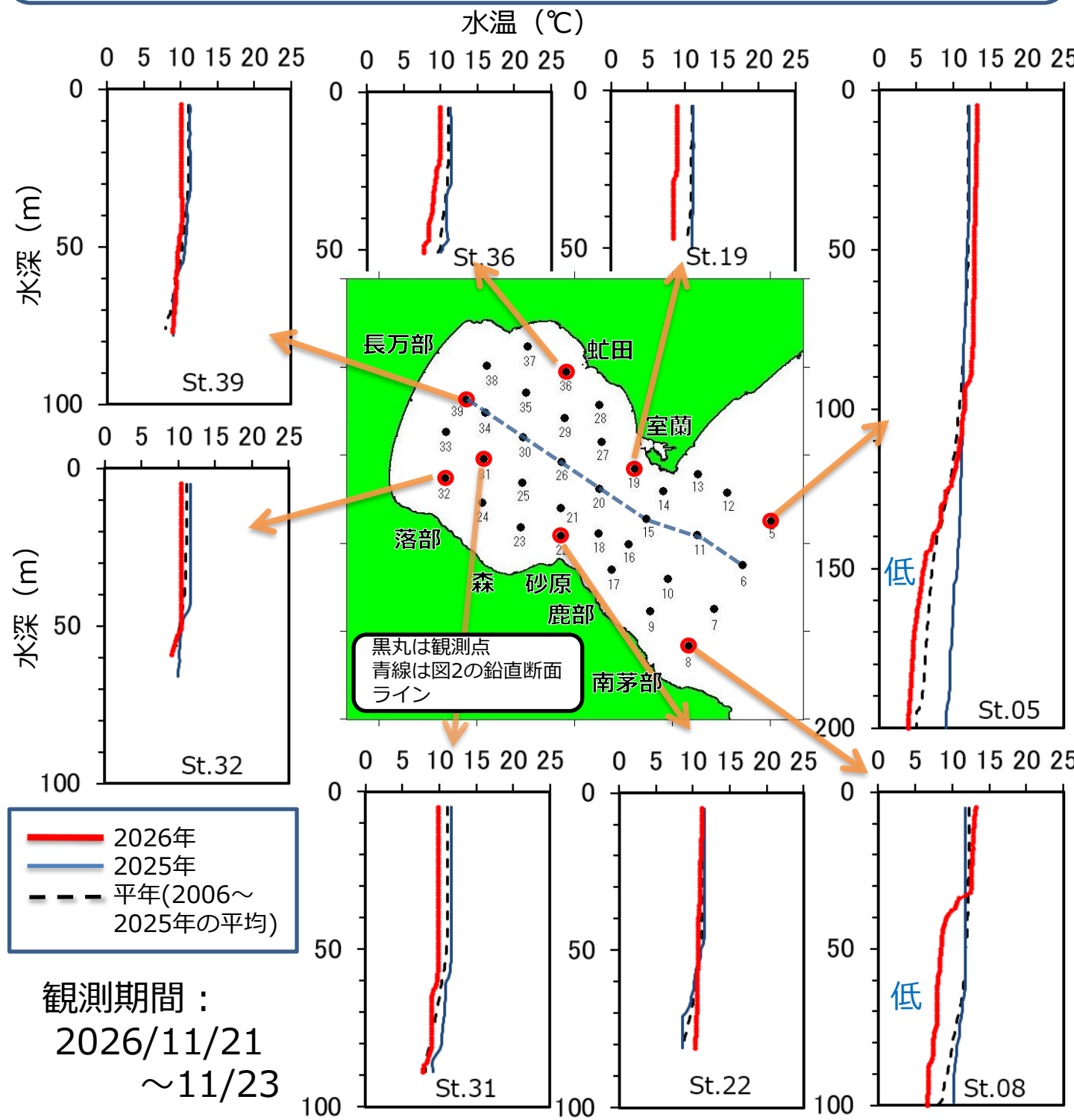
2026年11月21～23日に函館水産試験場試験調査船**「金星丸」**で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。

QRコードからもアクセスできます→

・噴火湾内は冷却に伴い下層まで均一な水が形成されつつあり、海底の貧酸素も解消しました。
・渡島側湾外の40m以深は平年より3℃程度低い水温になっています。

【水温の鉛直分布】

大気からの冷却により鉛直混合が進み，噴火湾内の深度60m以浅は9～11℃台のほぼ均一な水温になっています。40m以浅の水温は湾内と比べ湾外で高くなっています。また，渡島側湾外（St.08）の水深40m以深では平年より3℃程度低くなっていました。



観測期間：
2026/11/21
～11/23

図１　噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温，塩分，溶存酸素，密度の鉛直断面分布】

噴火湾内は11月までに暖流系水の流入および気温低下に伴う海表面冷却により鉛直方向の海水の混合が進んだことから，**表層から深度60m前後まで水温9～11℃台，塩分33.6以上の均一な水に覆われています**。溶存酸素は11月は湾内の水深60m以深では上層と比べ低い値になっていますが，すべての点で2ml/Lを上回っていました。

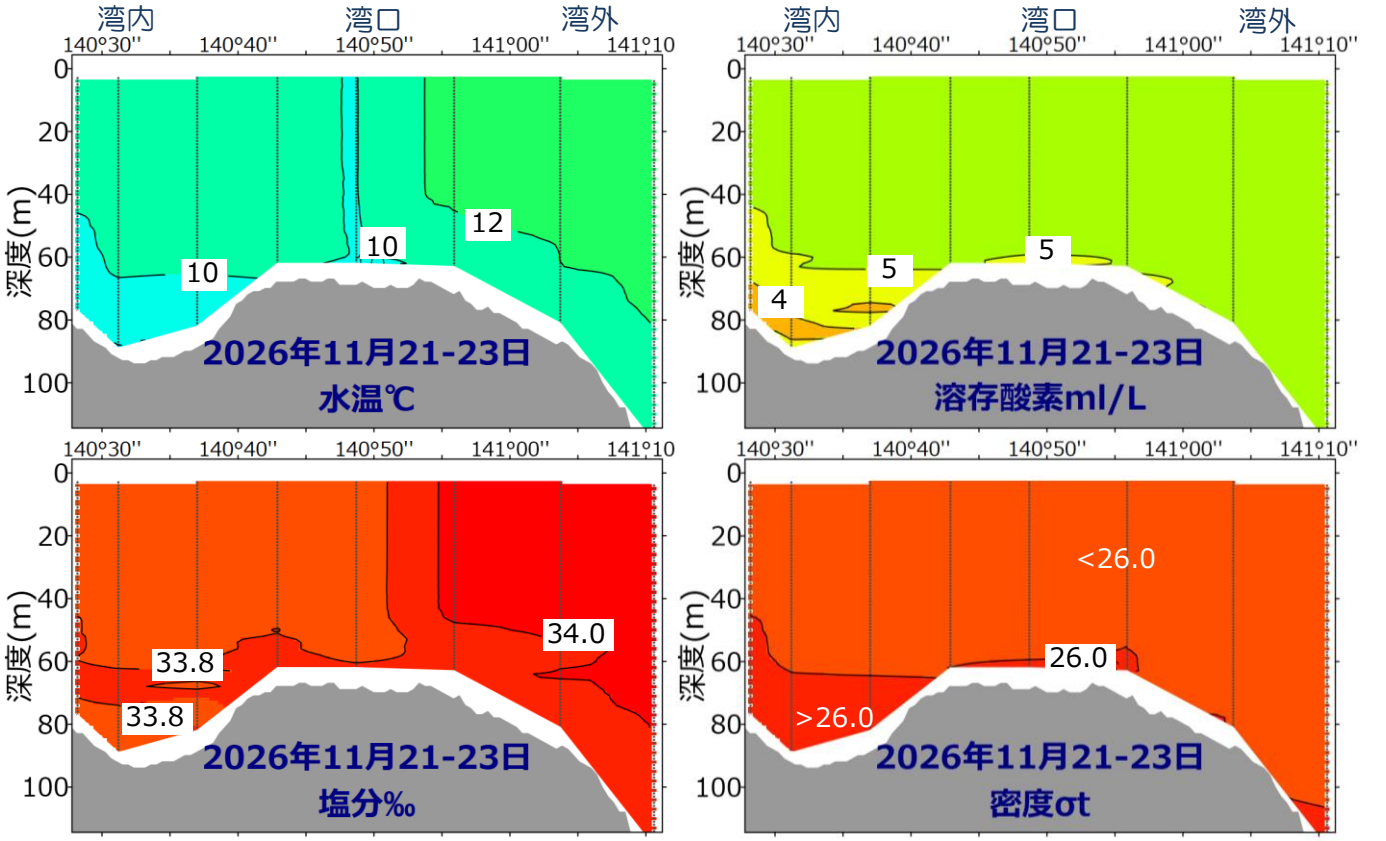


図2　11月の鉛直断面図（左上：水温，左下：塩分，右上：溶存酸素，右下：密度）
鉛直断面のP1地図の青破線を参照　　図中縦点線は観測点

【水温，塩分の水平分布および底層の溶存酸素分布】

湾内の水深40m層は水温9～10℃台，塩分33.6～33.8，湾外では水温11～12℃台，塩分33.8～34.1と，水温・塩分ともに湾外の胆振側で高くなっていました。
海底直上5mにおける溶存酸素は胆振側湾奥で低い傾向がありましたが，全域で2ml/Lを上回っていました。また，水深20mにおける溶存酸素は全域で5ml/Lを上回っていました。**9月時点で湾内に流入していなかった暖流系水は9月下旬以降から流入が進み，大気からの冷却も加わって海底の貧酸素が解消した**とみられます。今後，鉛直混合がさらに進むことで，湾内の溶存酸素は上昇すると見込まれます。

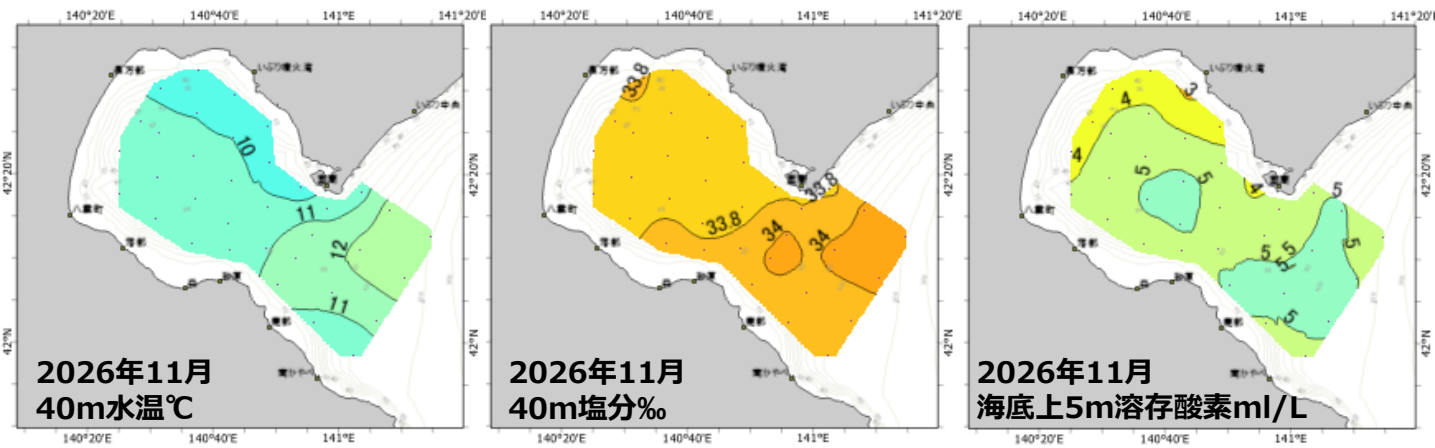


図3　11月の水平断面図（左：40m層の水温，中：40m層の塩分，右：海底上5mの溶存酸素量）